

地域ボランティアプログラム

松木日向緑地プログラム 【プレ企画】

竹の間伐体験 & たけのこ掘り

連携団体 ひなた緑地遊学会

2021年 4月10日(土)、18日(日)、24日(土)

報告



参加者募集に先駆け、プレ企画を実施！

5月中旬から始まる都立大ボランティアプログラムの参加者募集に先駆け、地域ボランティアプログラム「松木日向緑地プログラム」のプレ企画として、4月10日(土)、18日(日)、24日(土)に「竹の間伐体験&たけのこ掘り」を実施しました。活動場所は、もちろん南大沢キャンパス内にある松木日向緑地です。

一昨年度までは「みんなで一緒にたけのこ掘り」と題し、近隣小学校に通う子どもたちやその保護者、自立支援施設の方々が行うたけのこ掘りを、学生ボランティアがサポートしていたのですが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により学外の方はキャンパス内に入ることができません。そのため、本学と協定結び緑地の管理を行っている地域団体「ひなた緑地遊学会」の方々と本センターで募集した学生で活動を行いました。17日(土)に予定していた活動は雨天のため翌日に延期となってしまいましたが、各回、10名、4名、10名の学生・教職員が参加し、竹の間伐やたけのこ掘りを体験しました。

「松木日向緑地プログラム」とは

都立大独自のボランティア活動である「ボランティアプログラム」では、地域ボランティアプログラム「松木日向緑地プログラム」とスポーツボランティアプログラム「スポーツボランティアリーダー養成プログラム」の各プログラムにおいて、事前・事後の学習と連動した活動を年間を通じて行っています。

今回プレ企画を行った地域ボランティアプログラム「松木日向緑地プログラム」では、都立大・南大沢キャンパス内にある松木日向緑地をフィールドとして、里山保全・多世代交流活動に取り組んでおり、これまで竹の間伐を含む竹林整備や間伐した竹を活用した交流活動の企画・運営をしてきました。

当日の様子

前半の活動は、「竹の間伐体験」です。参加学生は小グループに分かれて、松木日向緑地プログラムに3年以上参加している「リーダー」の学生やひなた緑地遊学会のサポートのもと、竹の間伐を体験しました。

経験者による竹の間伐のデモンストレーションを見ながら説明を聞いた後、早速手順を確認しながら実際に古い竹や枯れている竹、樹木に沿って生えている竹の間伐に挑戦してもらいました。竹は人間の背丈の何倍も高さがありますが、のこぎりを入れる位置や角度、切り込みを入れた後の倒し方のコツさえつかめば、あまり力をいれなくてもスムーズに伐採することが

竹の間伐している参加学生の様子



できます。初めて竹の間伐を体験する学生の多くは、「受け口」「追い口」と呼ばれる切れ目の入れ方に苦戦していましたが、次第にコツをつかみ、スムーズに竹を伐採できるようになっていました。日頃オンライン授業が多く自宅にいる時間が長い学生も多い中で、参加学生は「良い運動になる」と話しながら、気持ち良さそうに活動し、良い汗をかいていました。

後半の活動は、「たけのこ掘り」です。残念ながら今年是不作の年だったので、まずはたけのこ探しに苦労しました。

たけのこは、地面の盛り上がりやたけのこの先端部分などを目や足の裏で確認しながら探していきます。伸びきったたけのこは固くなり、香りも薄くなってしまいますので、美味しいたけのこを採るためには地面から少しだけ出ているたけのこを探さなければなりません。

参加学生は、自分で探し苦労して掘ったたけのこを抱え、嬉しい重みを実感しながら帰っていました。

たけのこを掘っている参加学生の様子



都立大ボラセン
YouTubeチャンネル

当日の様子を公開中!

